

7月例会「初夏・水辺のいきもの探検」報告書

- 主催 立田山自然探検隊・熊本市（森の都推進部長・みどり公園課長ほか6名参加）
- とき 令和6年7月28日（日） 午前10時～正午
- ところ お祭り広場／トンボ池周辺（集合・解散）
- 指導員 藤井、益田、清田、倉光、長濱、佐藤、藤井(景)
- 講師 清水 稔 先生（熊本博物館学芸員）
- 参加者 25家族、64名
- 観察種 54種

（水生動物17種） マユタテアカネ(ヤゴ)、ギンヤンマの仲間(ヤゴ)、コオイムシ(卵つき)、コツブゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、ウスイロシマゲンゴロウ、タマガムシ、ヒメセマルガムシ、マツモムシ、コマツモムシ、アメリカザリガニ、ヌマエビの仲間、ニホンアカガエル、トノサマガエル、アカハライモリ、ドジョウ、カダヤシ

（陸生動物37種） ウスバキトンボ、ショウジョウトンボ、ハラビロトンボ、ベニイトトンボ、マユタテアカネ、ツマグロヒョウモン、ベニシジミ、クロヒカゲ、ショウリョウバッタ、マダラバッタ、ヒメクサキリ、ハネナガイナゴ、コカマキリ、オオフタモンバタマコメツキ、シロテンハナムグリ、ナナホシテントウ、タマムシ、コクワガタ、ノコギリクワガタ、ヨツスジトラカミキリ、ナガニジゴミムシダマシ、キマワリ、ワキグロサツマノミダマシ、オオヒラタシテムシ(幼虫)、ツチカメムシ、キマダラカメムシ、クモヘリカメムシ、ケラ、アブラゼミ、クマゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ(抜殻)、キアシナガバチ、セスジスズメ、アシナガグモ、ザトウムシ、ミミズ

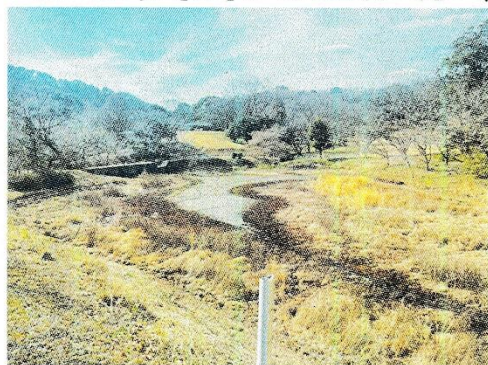


熱中症警戒アラート発令中の猛暑の中で開催。暑さにもめげず、魚あみやバケツ、虫あみや虫かごを持った子ども達が集まりました。始まりの会が終わると子ども達はトンボ池に入り、お祭り広場を走り回って「水辺の生きもの」採集し、清水先生や自然観察指導員から名前を教えてくださいました。

今年は、昨年(38種)を上回る54種の動物を確認。トンボ池は昨年度(約2週間)、完全に干し上がり「水生動物」への影響が心配されましたが、数字の上では多くの動物が何とか生き延びたようです。

たつたやまいこい もり いけ いけ いけ 立田山憩の森の池(トンボ池・サクラ池) について

- ・立田山憩の森のトンボ池とサクラ池は、30年くらい前に作られた池で、その間にたくさんのいきものがすみつくようになりました。
- ・でも、毎年池に土がたまり、水の量が減って行って、ついには昨年度、サクラ池の水がかれてしまいました。
- ・今は、水がたまっていますが、今度は大量のプランクトンがあらわれて池が赤くなったりしています。



- ・今後、すんでいるいきものを調べて、池のしゅんせつ(底にたまった泥をとること)などで、雨水をたくさんためられるように、池の再生にとりくんでいきます。

●環境をまもりながら池を再生するためにも、いきもの調査がたいせつです。
池をもとにもどすため、みんなの力をかしてください。

熊本市 みどり公園課(くまもとしみどりこうえんか)